

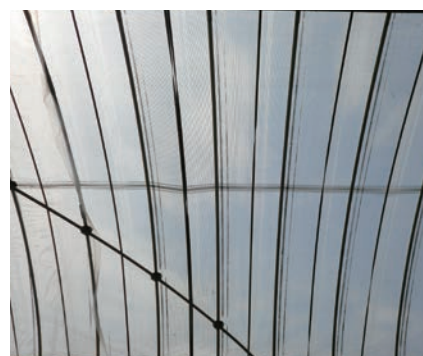
# 紫外線カットフィルムの効果確認



①試験品(グローマスター)9.24撮影



②試験品(グローマスター)9.24撮影



③試験品(グローマスター)9.24撮影



④試験品(グローマスター)9.24撮影



⑤試験品(グローマスター)9.24撮影



⑥試験品(グローマスター)9.24撮影

<b>試験目的</b>	紫外線カットフィルムの効果確認							
<b>試験作物及び品種</b>	ハーブ(マーシュ、セルフューユ、バジル、イタリアンパセリ、ルッコラ、他)							
<b>試験資材及び数量(規格)</b>	クリンテートグローマスター(0.1mm×840cm×39m)							
<b>慣行資材</b>	クリンテートDX(0.1mm×840cm×39m)							
<b>栽培方法</b>	<table border="1"> <tr> <th>播種日</th> <th>収穫日</th> <th rowspan="2">【栽植密度】 畝幅：1.2 cm 株間：15 cm</th> </tr> <tr> <td>慣行区：3月22日 試験区：3月22日</td> <td>慣行区：6月2日 試験区：6月2日</td> </tr> </table>	播種日	収穫日	【栽植密度】 畝幅：1.2 cm 株間：15 cm	慣行区：3月22日 試験区：3月22日	慣行区：6月2日 試験区：6月2日		
播種日	収穫日	【栽植密度】 畝幅：1.2 cm 株間：15 cm						
慣行区：3月22日 試験区：3月22日	慣行区：6月2日 試験区：6月2日							
<b>資材使用期間</b>	4月30日～8月10日	<b>試験区面積</b>	225㎡					

## 試験結果

- 作業性について(慣行品との比較)**  
問題なかった。展張作業は慣行品と差はない。
- 作物の生育状況または、収穫への影響**
  - 紫外線カットフィルムは作物が徒長気味に生育するが、ハーブは葉が軟らかくなるため良い。
  - 10年前から、紫外線カットフィルムのクリンテートグローマスターを使用している。ハーブは、虫が付きにくいと思われる方もいるが、簡単に虫による被害を受けるため、クリンテートグローマスターの害虫抑制効果は必要と感じている。
- 栽培管理上の優位点あるいは問題点について**

【優位点】：害虫の発生を抑制できるため良い。ハーブは少しの食害でも商品価値がなくなり、販売が不可となる。

【問題点】：農P O全般に言えることだが、熱による融着が問題。また、擦れに弱い。
- 資材の強度・耐久性・崩壊性について**
  - 台風などの強風に強いと感じる。
  - 熱と擦れに弱いのが難点。
  - 丸4年経過しても害虫抑制効果は変わらない。
- 保温効果について**  
問題なし。
- 雑草・病害虫の発生について**  
問題なし。  
殺虫剤を1回散布するが、害虫の発生は見られない。  
害虫による被害もなく、4年目のグローマスターだが問題なく使用できている。

## モニター感想

ハーブの品質基準は、害虫による被害が少しでもあると販売ができない。  
ハーブは虫を寄せ付けないと見られがちだが、一部のミント系のハーブのみで、現在栽培しているハーブは他作物と同様に害虫の被害を受ける。そのため、10年前から紫外線カットフィルムを使用しており、防除回数が減ったため、その効果を実感している。

## JA担当者の感想(生産資材課 野呂係長)

ハーブのような繊細な作物には、害虫対策を徹底する必要があるが、防除だけに頼るとコストアップ、作業性が低下することが懸念される。紫外線カットフィルムの効果は高いとも思われ、その結果コストダウンに繋がり、品質向上の一助になっていると考えられる。  
現段階の紫外線カットフィルムの効果は、ある程度広く認知されていると思われるが、その効果については、再度見直しをかけて丁寧なデータ収集と組合員へのフィードバックが必要と感じる。

## 今後の使用について

改良して欲しい。  
擦れに弱いので、ハウス峰部だけでも補強してほしい。

- 1 クリント
- 2 高温対策
- 3 害虫忌避効果
- 4 生分解性マルチ
- 5 育苗資材
- 6 酪農資材
- 7 その他